

◆ 使用済自動車判別ガイドラインワーキング最終会議開催	1
◆ 事務局便り	1
◆ 【読者投稿】コンバートEVレース参戦記(2)	2
◆ 企業連携による資源循環セミナー開催について	2
◆ スクラップ市況最新状況	3
◆ 編集後記	3

ハイライト:

- ◇ 使用済自動車判別ガイドラインワーキンググループ最終会議開催。ガイドライン案を巡り活発な議論が。
- ◇ ELV機構常任委員会はレアメタル、レアアースの再資源化に関する検討を開始する。春にキックオフセミナーの開催を計画。
- ◇ ELV機構のウェブサイト再構築進む。4月には新HP立ち上げ。

～使用済自動車判別ガイドラインワーキンググループ最終会議開催～

《経緯と主な合意事項》

昨年1月に公表された「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」において指摘された「中古車と使用済自動車の取り扱いの明確化」を目的とするワーキンググループが設置され、2010年7月1日の初回から数えて第5回目の2月1日の会議をもって議論を終了させた。日本ELVリサイクル機構からは、大橋副代表理事が委員として参加しており、解体業者の立場から意見発表、主張を行ってきた。今回の第5回会議では、これまでの議論を踏まえて事務局（経産省、環境省）が取りまとめた報告書案が提出され、内容の説明と質疑が行われた。最終報告書（ガイドライン）は、一任されたグループ座長（永田勝也 早大教授）並びに事務局が、当日の議論を踏まえた最終報告書を公表することとなった。

《報告書：ガイドラインの構成と内容》

報告書は、本ガイドライン利用者の便を考慮し、第一部「使用済みとなった自動車の適正な流通の確保に向けたガイドライン」、第二部「不法投棄及び不適正保管事案への対応に向けた使用済み自動車判別ガイドライン」の二部構成とされている。第一部の要点は次の通り；

- ◇所有者が使用を終えた車両を使用済自動車とするか中古車とするかの判断をする際、引き取り業者は十分かつ分かりやすい情報を提供すべきである。
- ◇しかしながら、個々の車の状況や条件、判断を行う場面が異なることなどから一律の基準を設けることが困難であることが明らかになった。
- ◇自動車の所有者が、その車両の状態に応じた適正な判断を行えるよう、ガイドラインでは流通における各場面ごとの情報の整理を行った。
- ◇引き取り業者等は今後、所有者に対して、これら情報を的確に伝えることが求められるほか、情報の伝達に際しては、口頭のみによるのではなく、書面をもって確認▲

▲することが望ましいことで関係者が合意した。

◇今後、書面によるより適切な確認方法について検討をする他、ガイドラインの実施状況、実効性等につき、合同会議の場等で評価・検討することとなった。

《所感》

今回を含め5回のワーキンググループが開催され、結論としては、一律の判断基準を導き出すことはできなかった。しかしながら、車の所有者が使用を終えた車の処理に関し、意思決定すべきことを参加者が共有できたことは大きな成果であり、加えて、所有者の意思決定プロセスを書面で確認することが望まれることを、流通業界の代表者と共有できたことは前進であり、今後の推移を見守りたい。

なお、第二部は地方公共団体が、不法投棄・不適正保管に該当する車両を対処する際、当該車両を使用済自動車と認定することが出発点となることから、使用済自動車と認定するための考え方を整理し、迅速かつ透明性の高い運用が可能となることを目的としてガイドラインを定めるものである。■



使用済自動車判別ガイドラインワーキング第5回会議の様子

▲第5回ワーキンググループ会議（最終回）で配布されたガイドライン案に関する資料は以下をご参照ください。

- http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004689/005_02_01.pdf :ガイドラインワーキング報告書 第1部
- http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004689/005_02_02.pdf :ガイドラインワーキング報告書 第2部
- http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004689/005_03_00.pdf :図解説明資料

【事務局便り】平成21年事業として実施している日本ELVリサイクル機構ウェブサイトの更新作業が進んでいる。昨年秋に伊丹副代表理事をヘッドとする更新作業チームを立ち上げ、業者選定を行ってきた。費用をかけない、操作が簡単、コンテンツの更新が容易等を条件に、全国の会員からの紹介などにより選んだ業者4社から企画案、見積もりなどの提出を受け選定作業を行い、最終的には盛岡に本社を置く(株)システムエンジニアリングを採用することを決定。現在、立ち上げ作業を進めており、4月には新たなHP開設の予定。■

《いよいよEVレース参戦》

出場するコンバートEV《第九74分ディスタンスチャレンジ》には27台がエントリー、その内13台が初出場。大型モーター・リチウムイオンバッテリー搭載のハイスペック車輛からスタンダードな車輛までが混走するが、レギュレーションでハンディキャップやイベント性を設けることでイコールコンディション化しレースを盛り上げる。



(ラッピングも完了、いよいよ出陣)

変則ルマン方式でスタートした各車は順調に走行、ポジションも目まぐるしく入れ替わる熱戦。しかし、昨年まで60分だったレース時間が74分になった事が各チームを苦しめた。レースも40分を超えコントローラトラブル、バッテリーの電力切れ等でピットインを余儀なくされるチームが見られる中、我が【軽V3】も60分が経過したあたりで急激な電力低下を起す。周回数と残り時間を計算し今できる最善策を割り出し、「絶対にチェッカーを受ける」と今日まで戦ってきた仲間の気持ちは一つになった。結果、最終ドライバーは“電欠”と闘いながらわずか1周を汗だくになりながら走り切り感動のチェッカーを受けた。誰からともなく歓喜の声が上がり、チームメンバーは涙を浮かべながら抱き合った。ほどなくして増田社長の体が3回宙を舞う事になる。まるで優勝したかの様なあ▲

▲りさまで、到底、完走12位とは思えないような盛り上がり方であった。イベントに参加された方々からも、「本当に良いチームですね」とのお褒めの言葉は、いかなる賞品に勝る得難い成果であった。まずはレースを無事に終えることが当初目標だったが、頑張っ完走し、真のチームになった事が最高の喜びだったと心から思う。

思いは尽きないが、EV(手作り電気自動車)に出会えた事に感謝の気持ちで一杯だ。この後は改造申請を経て車検をクリアし、ナンバーを取得したEVで一般道を走ることので認知度を高めながら、環境への取り組みと社会貢献活動をする事が目標になる。

未来の地球環境を考え、明日を生きる子供たちの笑顔のために、微力ではありますが我々(株)茨城オートパーツセンターは全力を尽くします。この場をお借りして、本日までお力添えをいただきました関係各位様に感謝申し上げます。■



感激の表彰式...中央黄色のジャンパー姿が同社増田社長

～ 企業連携による資源循環セミナーの開催について ～

3月18日にキックオフ会議開催

日本ELVリサイクル機構常任役員会は、去る1月の例会において、自動車リサイクルの高度化活動の一環として、使用済自動車に含まれる希少金属、希土類など、いわゆる「レアメタル、レアアース」の回収ならびに再資源化への道を、企業連携により切り開く方策の検討を開始することを決定し実施策の検討に入りました。日本ELVリサイクル機構のかかる取り組みについては、2008年11月25日付JAERAニュースレターに、当時の機構代表理事酒井清行氏(故人)が寄稿した「アーバンマイン」と題する短文から推測できる通り、業界内では漠然とした認識はあるものの、具体的に何をすべきかについては検討が及んでいませんでした。文中、酒井氏は“我々自動車リサイクル産業が処理するELVは、これだけの資源を提供している都市鉱山ということになり、もし、我が業界が一致団結し、回収・集荷システムを構築し、出荷先を選択するなど協調的行動をとれば、新たなビジネスチャンスを創造するのみならず、大きな社会貢献を果たすことにもなる”と述べて▲

▲いますが、けだし達見ではないでしょうか。この活動における重要なポイントは、「企業の連携」ということであり、これは、解体業界自身の相互連携と、再資源化、資源利用者などの外部関係者との連携を如何に図ってゆくかということに尽きるのではないかと考えます。

今回、来る3月18日に当機構を構成する各地域団体関係者、機構役員、ブロック長等を対象とするキックオフセミナーを開催することを決定した。これは、本件に関する関係者の知識向上と機構内部の相互理解促進を図ることを目的としており、その際の出席者の反応をはかり、全機構会員を対象とする本格的セミナーを展開する(例えば、6月の年次社員総会と併設)ことを検討することになる。

今後、本件に関する機構の一連の動きについては逐次ご通知いたしますが、会員の皆さまにおかれましても、ご意見、ご要望等があれば事務局までご連絡ください。■

日本ELVリサイクル機構
副代表理事 伊丹伊平

《編集・発行者》

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 広報チーム
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号 一美ビル
Tel: 03-3519-5181
Fax: 03-3597-5171
E-mail: jaera-office2@clock.ocn.ne.jp

【jaera行事予定】

- 3/17 常任役員会
- 3/5 中部ブロック会議
- 3/6 全国安全指導員研修会
- 3/11 近畿ブロック会議
- 3/12 四国ブロック会議



《2月第3週の鉄スクラップ価格動向》

～国内は上昇、海外は下落基調と正反対の動き～

鉄スクラップ相場は、近年では珍しく国内と海外で正反対の動きを見せている。国内では電炉メーカーの生産量が回復傾向にあることや、高炉メーカーが積極的にスクラップの購入量を増やしているため需要は堅調だ。しかも鉄スクラップの発生が少ないため、需給はタイトになっている。このため、しばらく横ばいで推移していた鉄スクラップ相場は2月中旬に入って再び上昇し、強基調となっている。特に西日本でその傾向が強い。こうした一方、欧米の鉄スクラップ価格は値下がりしている。エジプトと近隣の政情不安は、鉄スクラップの主要輸入国であるトルコの動きにも影響を与えた。1月のピークでHMS1&2(80：20)がCFR500ドルを上回ったトルコ向けの相場は、一気に440ドル台に下落した。この余波で米国玉は弱基調となり、東南アジア向けも徐々に値下がり傾向にある。

■東京製鉄が全工場500円値上げの改定

東京製鉄は、16日付で全工場のスクラップ購入価格を500円値上げした。11日に続いて2月に入って2回目の価格改定となる。改定後、岡山・海上の特級が40,000円に乗せた。その他の特級は岡山・陸上39,500円、九州海上・陸上39,000円、宇都宮38,500円。

関東地区 電炉各社は500円どころ値上げ
～東京製鉄・宇都宮は1カ月ぶりの値上げ～

関東地区の鉄スクラップ相場は、16日に東京製鉄が全工場の鉄スクラップ購入価格を値上げしたことを受けて、電炉、高炉のほとんどが500円どころの値上げを実施▲

▲した。電炉については3連休の操業でスクラップの在庫が減少し、週明けも入荷が好転しなかったため、対応を迫られていたという背景がある。これにより、H2の実勢価格は36,500～37,500円中心、高値38,500～39,000円見当となった。浜値は37,500～38,500円で推移している。

■東海地区 メーカーの市況対応にバラつきあり

東海地区では、愛知製鋼と共英製鋼名古屋が11日から1,000円値上げし、これ以降は様子見の状態という一方で、トピー工業が高値訂正で16日から500円値下げと、メーカーの動きにバラつきがあった。同じ16日には東京製鉄の値上げがあり、安値メーカーは今後、値上げ対応に迫られそうだ。物不足の状態に変わりはなく、これから底値が切り上がるという見方が大勢だ。H2の実勢価格は38,000～38,500円中心、高値39,000円見当。

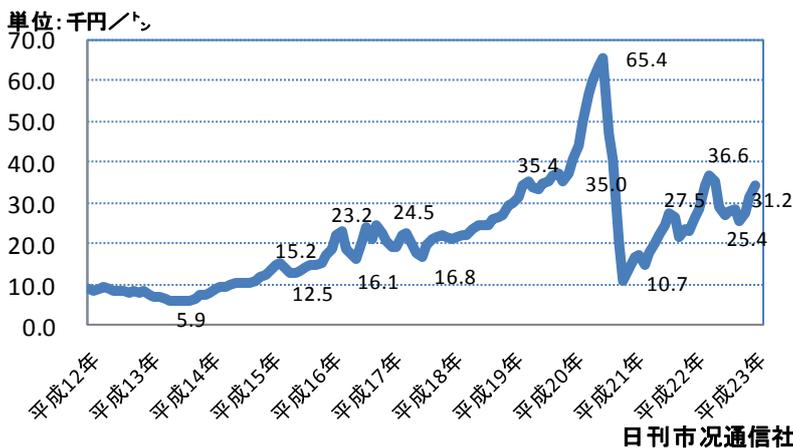
～西地区 西日本は先行する大阪地区に追従するかたちで続伸～

西日本の鉄スクラップ相場は続伸した。大阪地区は先行して値上げしている所が多く様子見のままで、その他の地区の電炉の大勢が16日から実勢価格を500円引き上げた。

大阪地区のH2の実勢価格は、39,000～40,000円。3連休前を出していた裏値やスポット価格は消えたものの、まだ強含みと言える。姫路ではヤマトスチール他とJFE条鋼が16日から500円の値上げを行った。H2の実勢価格は39,000～39,500円となった。■

(※各地の価格動向は2月16日時点のもの)

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



2月第2週(16日)の国内スクラップ市中実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	36,500	～ 39,000	値上がり
	南関東	36,500	～ 39,000	値上がり
名古屋		38,000	～ 39,000	様子見
関西	大阪	39,000	～ 40,000	様子見
	姫路	39,000	～ 39,500	値上がり

☆☆☆編集後記☆☆☆

- ◇ ELV機構の前代表理事酒井清行さんの逝去から一年が経過した。懐かしいというより無念の気持ちがまだ先に立ちます。そんな酒井さんのことを振り返ったとき、本信掲載の「企業連携による・・・」(p2)で伊丹副代表が引用している酒井さんの短文に目が引かれた。今や世をあげてレアメタル、レアアースの話題が沸騰しているが、二年以上も前に、企業連携によるアーバンマインの活用を提起した酒井さんの先見性を今更ながら再確認した次第。
- ◇ 使用済自動車判別ガイドラインワーキンググループ会議が終了した。5回に及ぶ会議に出席いただいた大橋副代表にはお疲れ様でした。成果が見えにくい結末ではあったが、車両引き取り時にユーザーさんの意向を確認、特に書面で確認することで合意に▲

▲ 達したことは大きな成果と評価される。具体的にはどのように実施するか、関係業界の動きを注視したい。

- ◇ 予め憂慮されたことではあるが、会員から在庫不足、玉不足の悲鳴が上がっている。スクラップインセンティブ終了の影響はある程度予想されたが、想定を上回る減少幅となっている。その反面、一時減少したオークション出展が増加して、車両価格も上昇傾向と聞いている。何処に訴えるあてもなく、耐え忍ぶだけでは辛すぎる。
- ◇ 機構本部の所在する東京新橋にも、冬の名残の雪が降った。降雨、降雪量の少なかった今年の東京に少しの湿り気を残して消え去った。■ (編集子)